

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570809822		
法人名	グリーンステージ株式会社		
事業所名	グループホーム大仙大曲		
所在地	秋田県大仙市大曲字福辺内3-1		
自己評価作成日	令和5年11月1日	評価結果市町村受理日	

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の気づきを大切に日常生活に取り入れ自立支援に取り組んでおります。カンファレンスでは、家族・本人の意向を聞き入れながら、職員の自由な活発な話し合いを行い、利用者様が穏やかな日常生活が送れるよう支援しています。また、感染症に対して基本的な感染予防を徹底し安心した生活を送れるように努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php">http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和5年11月24日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスが目指す意義を大切に、皆が同じ方向を向いて支援にあたる姿勢が強く感じられるホームである。それは、家事作業を丁寧に、寝たきりにしない、孤立させない確固たる信念を職員が持ち続けているところや、個別の介護計画に沿った一人ひとりの支援内容が記載された「モニタリング及び生活の記録」を毎日職員が書き込むことで、計画と日々の支援がリンクするように取り組まれているところからも読み取れる。また、「身体的拘束等の適正化」や「重度化した場合おける対応」に係る指針がしっかりと整えられており、地域の理解を得るための運営推進会議も、書面開催ではあるが書面上での意見交換のできる仕組みが構築されていた。職員間の良好な関係性が働きやすい環境につながり、さらにはホームのアウトホームな雰囲気にもつながっている。家族に月1回写真付きの手書きのお便りを送付するなどの丁寧な支援により、家族にとっても安心できるホームとなっている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働いている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で作成したグループホームの理念を掲示し、またカンファレンスや申し送り等で話し合いをして理念を共有し実践できるようにしている。	自分たちで決めた介護理念を多目的ホールの見える場所に貼り出し、朝の申し送りや職員会議等で確認するとともに、個人面談の際にも確認しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症の流行で顔を合わせたの付き合いが減っていますが、マスク着用や遠くからの挨拶で交流をしている。	感染症の不安がある中で、どのタイミングで行事を再開したら良いのか判断に迷うところではあるが、近所のお宅の桜の木や庭の花を見に散歩する等、地域の方と顔を合わせて挨拶する機会を意図的に作っている。近所の方が除雪を行ってくれたり、水害被害の際に駆けつけてくれたりと、日常的なつながりが構築されている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議や施設見学等にて認知症の病気の理解や認知症の人への支援等を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の中で書面で報告をしている。日常生活の様子を写真つきで報告している。その中で頂いたコメントをサービス向上にむけて取り組んでいる。	今年度は現段階まで書面での開催となっているが、委員に配布する資料は写真つきの報告で、ホームの様子がよく分かる内容となっている。資料を見た委員の方々からは、書面で意見を提出してもらい、その意見を記録し、運営に活かそうとする取組が分かりやすくまとめられている。12月に実施する運営推進会議は、参集型で行うことを予定しているとのこと。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームの概況や利用状況等の報告を行い、出席者からの意見や要望を聞きサービスの向上に努めている。	運営推進会議で丁寧な報告を行い、意見をもらうことで連絡を取り合っている。生活保護を受給している方が2名おり、調査の際に情報を共有し連携が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や社内研修にて、その人の尊厳を考えつつ、身体拘束についての理解に努めている。身体的拘束等の適性化のための指針を作成し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。運営推進会議を活用し身体的拘束等適性化委員会を開催している。	「身体的拘束等の適性化のための指針」がしっかりと作り込まれており、「身体的拘束等の行動制限を行う場合の手続きの流れ」もフローチャートにして分かりやすく示されている。社内研修では起こりそうな事例についてグループワークをし、一人ひとりの考えを高める機会としている。身体的拘束等適性化委員会の内容は、運営推進会議でも報告されている。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して学んでいる。必要に応じて活用できるよう知識向上に取り組んでいる。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に文書と口頭で説明をし、疑問点をたずね不安を解消できるようにしている。説明に理解して納得して頂いた上で、署名を頂いている。入居後の改定した項目についても分かりやすく説明し、同意を得て署名を頂いている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	面会時や手紙、電話等で意見や要望を伺えるよう努めている。また、玄関先には意見箱を設置している。意見や要望等はその都度申し送りをし反映している。	介護計画を家族に送付する際、書面でご意見をうかがっている。また、月1回家族に写真付きの手書きのお便りを送付すると、利用者や管理者宛に手紙が届くこともあるとのこと。家族からは要望よりも感謝の言葉が多く聞かれている。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	職員会議や個人面談を行い意見や提案を聞く機会を設けている。話しやすい環境に努めている。	職員会議や個人面談で要望を聞き取っている。浴室を新しくする時には、手すりの位置について職員の意見を聞いて対応している。管理者に相談しやすく、子育てや介護といった家庭の状況や体調に合わせた勤務調整、希望休取得等、働きやすい環境となっている。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型事業者連絡会等の研修会に参加して情報交換を行い、ネットワークづくりに努めサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行い、困り事、不安なこと、要望等に耳を傾けている。望む生活を確認し安心して頂けるよう努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談当初より、不安なことや困っている事に耳を傾け、できる限り要望や意向に沿って支援できるようにし、より良い関係が築けるよう努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ目線を持ち、生活歴の中で培ってきた経験や知識を教わり、日常生活において共に暮らす者同士の関係性を築くようにしている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や面会時には、日頃の様子を伝えて情報を共有している。家族との面会ができるよう支援し絆を大切にしている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	本人や家族、馴染みの人の希望により電話を掛けたり取り次いだりしている。また、手紙のやり取りも行っている。	利用者からの要望の実現として、花やお供え物を持参し社長が墓参りに連れて行ってくれた事例が確認できた。家族からは感謝の言葉があったとのこと。コロナ禍でも玄関先での面会は拒まず、親戚との電話でのやり取り等にも対応し、関係が継続できるよう支援している。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を職員全員が把握し、レクや作業を行う中で仲介に入り、孤立せず利用者同士が支えあえる環境作りに努めている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談がある時はいつでも連絡がとり合えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や行動の中から気づいた事を話し合い、カンファレンス等で意向を把握する。家族とも情報交換を行い本人の思いを尊重しながら希望に沿えるよう努めている。	何気ない会話の中から思いを汲み取り、利用者に寄り添って聞く姿勢を大切にしている。特に、リラックスできる入浴時間に本音が出やすいため、話題を記録に残し、職員間で情報を共有している。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにて生活歴、なじみの暮らし方、生きがい等の把握に努めている。自分らしく暮らしていけるよう、情報を共有し日々のケアにつなげている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	日常生活の中での情報や記録、本人、家族の意向、医師の指示を考慮し、サービス担当者会議等で検討している。意見やアイデアを出し反映させ個別の介護計画書を作成している。	個別の介護計画書に沿った一人ひとりの支援内容が記載された「モニタリング及び生活の記録」を毎日書き込むことで、計画と日々の支援がリンクするよう取り組まれている。中には「おくやみ欄を確認したい」といったニーズが書かれていて、記録用紙を見ることで個々の支援項目を確認しながら支援が行えている。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	日常の様子やケアの気づきを個別記録に記入し、申し送り等で情報を共有している。新たな課題が見つかった場合は見直しを行っている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症対策を行いながら、近くのスーパーや道の駅等に出かけたりして豊かな暮らし、医療機関への通院では健康で安全な暮らしができるよう支援している。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望や本人の病気を考慮し、かかりつけの医療機関で継続して利用できるよう支援している。また、医療連携体制を整え、協力医、薬局、歯科医といつでも相談できる関係を築き、適切な医療を受けられるようにしている。	本人及び家族の希望を大切に、かかりつけ医は継続している。職員が付き添って受診し、変化があった場合はすぐに家族に連絡している。かかりつけ薬局は薬を届けてくれ、その際に利用者の体調について情報交換できる良好な関係性が築かれている。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師がおり、健康チェックを行い常に相談や助言が得られる。体調の変化や気づきを話し合い適切な対応ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医療機関へ十分な情報提供を行い、安心して治療ができるよう援助している。入院中は荷物を届けたり面会にて病院関係者と情報交換や相談に努めている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応に係る指針を作成し、同意書を設けている。本人、家族の希望にそった終末期の対応ができるよう体制を整えている。	看取りは行っていないことを入居時に丁寧に説明し、理解を得ている。急な体調悪化により結果的に最期まで看取った事例もあった。医療ニーズが必要となった場合に適切な対応が取れるよう「重度化した場合における対応に係る指針」が整備されている。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職と意見交換や研修で学び対応の仕方を確認している。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震による火災、水害など年3回の避難訓練を行っている。	防災等の相互の協力体制が築けるよう地域の連絡体制を整えている。水害地域のため、市の防災課や消防団の見回りもある。また、町内会に海上自衛隊出身の方がいてくれることも支えとなっている。火災及び地震による火災訓練は年2回、水害訓練は年1回行っており、大雨の際には天気予報を確認しながら前もって荷物を準備し、避難場所への避難を経験している。事業継続計画は、地域密着の連絡会で情報交換しながら作成に取りかかろうと努力している。	
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりを理解し、自尊心を尊重し、さりげない言葉かけで対応しています。特にトイレ誘導や入浴時は本人の気持ちを尊重し、プライバシーに配慮している。	言葉遣いだけでなく、声のトーンや声掛けにも配慮している。トイレ誘導時にはさりげない言葉かけで対応しており、職員一人ひとりが接遇マナーを自覚し、忘れることのないよう接遇研修でも振り返っている。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用し本人の希望に沿いおしゃれができるよう支援している。衣類選びは簡単な言葉かけで自己決定できるようにし、その人らしい身だしなみを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬な食材を取り入れ季節を感じとり、好きな物を食べられるようにしている。職員と一緒に食材の下ごしらえ、盛り付け、食器拭き等、できる事を手伝って頂いている。	家族が持ってきてくれた新米できりたんぽを作ったり、自分の分のおはぎを作ったりしながら、季節感のある食事が提供されている。職員と一緒に台所に立って食器拭きを行う利用者や、もやしのひげ取を行う利用者もあり、家庭的な雰囲気が感じられた。家庭の味を大切にしているため、食事は利用者から好評とのこと。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量を記録し、栄養バランスを把握している。その人の状態に合わせた調理法にて食事形態に配慮している。水分量は一人ひとりの好みの飲み物で対応し、必要な水分量を確保している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い口腔ケアを行っている。見守りで出来ない方は、介助を行って清潔保持に努めている。寝る前に入れ歯洗浄剤を使用している。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を活用して、排泄パターンを把握している。定期的なトイレ誘導や本人の体調に合わせたトイレでの排泄を支援している。職員間で排泄状況について共有して、尿取りパットの枚数を減らしている。	排泄チェック表で記録をつけることにより、排泄パターンが把握でき、リハビリパンツと尿取りパットから綿パンツと尿取りパットに変更できた事例もあるとのこと。こまめなトイレ誘導で失敗も少なく、尿取りパットの枚数を減らすことができている。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や乳製品等を摂取、食物繊維を多く含む食事の提供など工夫を凝らしている。また散歩や軽体操等で体を動かし、予防に努めている。必要な場合は、かかりつけ医に相談し対応している		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望や体調に合わせ、出来る限り希望にそえるよう調整を図っている。入浴は利用者とのコミュニケーションや身体の状態観察ができる場面ととらえ、支援に反映できるように努めている。	利用者1人に対して週2回の入浴回数となっており、ゆず湯等季節に合わせた入浴も取り入れている。入浴は常時対応できるように体制を整えており、職員と利用者の対話の場としても大切な時間となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に応じて日中の活動の充実を図り、適度な休息、そして夜間には気持ち良く眠れるよう、音や照明などに配慮して環境を整えている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を職員が目を通せるようファイルし読み、目的を把握し理解している。薬の変更時は申し送りや日誌に記入し、必ず全職員が共有できるようにしている。医療関係者とは気軽に相談できる関係を築いており、症状の変化等は受診時に報告している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を知り、得意な事や楽しみ等を見だし、その人の力を活かした役割、日々の生活に張り合いができるようにしている。また好きな物を希望に沿いながら食べられるように支援している。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に天気の良い日は散歩をしている。また、本人の希望によりまわりの方々と協力して墓参りにも出かけている。	近所の桜を見に行ったり、駐車場に出て外の空気を吸ったりすることで、季節を感じてもらえるように努めている。外出は通院が中心になるが、その他にも道の駅で野菜を購入する等、近場の外出を行いながら、以前のような外出機会を検討している段階である。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じて買い物に行き、支払いができるよう支援しお金の所持や使う事を理解して頂けるよう努めている。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気や心がけ、花やちぎり絵を飾り季節感を感じるようにしている。室温や湿度を確認し必要に応じて換気をしなが、不快な臭いがこもらないようにしている。カーテンで光の調節をし居心地の良い空間づくりに努めている。	利用者が過ごす共用空間には季節を感じられる壁面装飾が施されており、室温や湿度を記録に残し、快適な環境づくりに努めている。ホームには日の光が差し込む多目的ホールがあり、ゆくゆくは町内会の集まる場として開放したいとのこと。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	多目的ホールを活用し、イス、ソファを置き、気のあった方同士でそれぞれ過ごせるようにしている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や本人の好みの物を持参して頂き、居心地良くその人らしい居室になるよう工夫している。	基本的に持ち込み禁止のものはなく、以前は仏壇を持参し、毎日ご飯をお供えしていた利用者もいたとのこと。ベッドは利用者の要望に応じた位置としており、家族の写真や作品を掲示する等、その人らしい居心地の良い空間となるよう工夫されている。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所がわからない方には、目的の名前のプレートを設置している。歩行が不安定な方には、掴まりやすいよう手すりを設置し安全に生活が送れるようにしている。		